

奈良県高齢者福祉計画の基本的な考え方（素案）

I 基本的な理念

- ① 「健やかで、実り豊かな人生」を送ることができる健康長寿立県を目指す。
 - ・ 本格的な高齢化時代を見据え、健康長寿の高齢者の増加を目指して取り組むべきではないか。
 - ・ 高齢者の暮らしの質の向上、暮らしやすいまちづくりを目指していく必要があるのではないか。
- ② 「新たな高齢者像」の創造を目指す。
 - ・ 本格的な少子高齢社会における社会の活性化を図るため、高齢者自身が主体的に、健康づくり、支え合い活動、生きがいづくり、社会参加を行う社会システムに切り替えていく必要があるのではないか。
 - ・ 県民全体が、本格的な高齢社会を前向きに捉え、それぞれの立場で新たな高齢者像の創造を目指し、取り組んでいく必要があるのではないか。
- ③ 「奈良県モデル」の構築を目指す。
 - ・ 高齢者の生活、介護等に関する実態調査で把握した高齢者の課題に的確に対応する高齢者福祉施策を企画立案し、展開すべきではないか。
 - ・ 県の様々なリソースやネットワーク活用等により、総合的な健康長寿対策、暮らし向上対策について、県は取り組むべきではないか。

II 県・市町村・県民の役割の明確化

- | | |
|---|--|
| 県 | <ul style="list-style-type: none">○ 基本的なビジョンや構想の提示 → 奈良県高齢者福祉計画○ 実態把握や施策の効果分析・評価等による PDCA サイクルの展開○ 県の資源等を積極的に活用し、ビジョン実現に向けた実行○ 市町村や民間団体、県民のネットワーク化の促進・支援、広域的調整・支援○ 意欲ある市町村・法人との連携による成功事例・モデルの確立、県内拡大による県内福祉のレベルアップ |
|---|--|

- 市町村**
- 的確な地域ニーズの把握ときめ細かな対応
 - 住民の直接的な相談窓口として、サポート、総合支援機能の発揮
 - 地域において必要なサービス基盤の確保

- 県 民**
- 県民自らが高齢化に向けて有効な知識（健康づくり、介護、認知症等）を習得し、暮らしに積極的に活用
 - 多種多様な組織・セクター（NPO・ボランティア、自治会、企業、社会福祉法人、行政）への関わりを通じた、住民同士の地域の支え合い、相互扶助

Ⅲ 奈良県高齢者福祉計画の特徴

- ・ 現役世代から高齢世代に至るライフステージごとに対策や施策を整理。
- ・ 65歳以前の中高年期や、要介護者等の家族も視野に入れた対策・施策。
- ・ 高齢者を一括りにせず、世代や身体の状態により複数に類型化。
- ・ 行政だけでなく、NPOや民間事業者など多様なセクターとの連携。

Ⅳ 奈良県高齢者福祉計画の視点

1 健やかな老い

【課題】

- ・ 県民の健康長寿のためには、中高年期から「豊かで健やかな老い」を意識した健康保持、健康づくりの取組が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 中高年期からの健康づくりの取組の全県的な推進と、押しつけでない、自主的な健康づくりの普及
 - 国民健康保険、社会保険、共済などの医療保険者の連携・共同
 - 「わたしの健康づくり」運動の普及・啓発（「食べるな」「歩け」方式の健康づくりからの脱却）

- 健康づくりのため、県民が誰でも気軽にスポーツを楽しめる環境作り
→生涯を通じた県民スポーツ振興

2 社会参加の促進

【課題】

- ・ 高齢者が明るく元気に過ごすためには、生きがいづくりが必要。
- ・ 介護予防の観点や、本格的な少子・高齢社会における社会のあり方として、高齢者の社会参加の促進が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 就労意欲のある高齢者がビジネス手法により地域福祉に貢献する場の創出
→ソーシャルビジネス・社会貢献型起業の促進、高齢者の帰農・起農のサポート
- 独居老人や高齢者夫婦世帯の増加に対応するため、高齢者を地域で支える体制づくり
→高齢者が孤立せず、人との関わりを維持するための居場所づくり

3 暮らしのサポート

【課題】

- ・ 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすため、高齢者のニーズに対応した、日常生活のサポート体制の整備が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 高齢者の負担となっている日常の買い物や移動などを県と民間企業等が連携したサポート体制の整備
→日常生活の支援・介助システムの整備（買い物、移動など）
→生活協同組合等との連携による新たな商品やサービスの開発
→多様なセクターと連携による見守り体制の整備（生協、JA、郵便局、老人クラブ、NPOなど）

4 住まい・まちづくり

【課題】

- ・ 独居高齢者や高齢者夫婦世帯の増加に対応し、高齢者の生活に配慮した住まいの提供が必要。
- ・ 住まいの環境が要介護状態の変化や家族介護の手間に関係。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 高齢者のニーズに対応し、また、利便性や安全面に配慮した住まい・まちづくりの検討
 - 高齢者のニーズに合った住替・グループリビング等の検討
 - 高齢者の生活に配慮した住宅の研究
 - 高齢者向け賃貸住宅の供給促進と質の向上

5 相談・支援体制の充実

【課題】

- ・ 介護問題等については、初期段階からの相談が極めて重要。
- ・ 地域における高齢者の様々な相談やニーズに応えるため、的確に情報提供や相談・支援機能の充実が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 高齢者や要介護高齢者を支える家族の相談・支援機能の中心となる地域包括支援センターを核とした相談・支援体制の充実
 - 地域包括支援センターの機能強化のための支援（相談・支援レベルの引き上げのためのサポート）
 - 家族への相談・サポート体制の充実、特養待機者等、緊急度の高い家族への重点支援システム確立

6 認知症高齢者への対応

【課題】

- ・ 認知症高齢者の増加が見込まれる中、県民の認知症への理解を高めるとも

に、認知症介護サービス基盤の整備が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 認知症への理解を高め、早期に発見するため、気軽に又は定期的にチェックできる環境を充実するとともに、質の高い介護サービス基盤を整備
 - 中高年期からの認知症の知識の普及・教育
 - 認知症の早期発見システムの確立
 - 認知症高齢者に適した介護サービス基盤の整備（認知症高齢者グループホームや認知症高齢者の短期的な受入れ施設の充実など）

7 在宅での看取りを支えるシステムづくり

【課 題】

- ・ 自宅での介護を希望する県民のニーズに応えるため、終末期に至るまで在宅介護が可能となる医療・福祉の連携システムの整備が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 在宅介護のための医療・福祉連携のケアシステムの先進例の普及と在宅看護拠点、地域密着型介護システムの基盤整備
 - 医療・福祉連携のケアシステムの全県的な展開（大和郡山市高齢者包括ケアモデル、山添村での取組）
 - 医療と介護の連携の拠点となる在宅看護拠点の整備
 - 小規模多機能型居宅介護サービスなど地域密着型介護サービスの拡充

8 介護を支える家族への支援

【課 題】

- ・ 要介護者の増加、家族の高齢化、少人数化により、家族の負担が大きくなっており、その負担を軽減するための支援が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- ますます大きくなる要介護高齢者を支える家族の負担を軽減するため、介護サービス基盤の充実と介護保険にとらわれない集中支援システムの確立

- ショートステイ、デイサービス等、在宅介護サービスの着実な充実
- 緊急ショートステイや地域密着型の小規模多機能居宅介護施設など、介護者のレスパイト（休息）機能を持つ施設の整備促進
- 介護が困難な高齢者や、要介護者への対応が困難な家庭への集中支援システムの確立

9 介護保険制度における介護サービス

【課題】

- ・新しい課題やニーズに対応するためには、現在の高齢者介護の根幹である介護保険制度における介護サービスを確実に実施することが基本的条件。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 保険料等の負担にも配慮し、質の高い介護サービスを継続的に安心して受けることができるよう介護保険制度を運営
 - 介護保険制度の着実・円滑な運営
 - 介護サービスの質向上のためのサポート
 - 給付の適正化（かえって状態悪化させるような利用は控えるなど）への取り組み、不正な事業者の排除
 - 特別養護老人ホーム、老人保健施設など介護保険施設の着実な整備推進

10 魅力ある介護職場、介護人材の確保

【課題】

- ・これからの介護サービス基盤を支えるためには、優れた介護人材の確保が欠かすことのできない条件。このためには、魅力ある介護職場づくりが必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 優れた介護人材が安定的に確保できるよう、魅力ある介護職場づくりのための条件整備
 - 社会福祉経営団体等と連携し、経営の向上を県が積極的に支援
 - 介護職員の社会的評価を向上するとともに、若い世代へ向けた、介護職の魅力やこれからの社会的重要度の高まりのアピール

11 県民への啓発

【課題】

- ・ 要介護高齢者を始めとする社会的弱者を地域みんなで支え合う文化を醸成し、また、「老い」とその備えを県民が自分のこととして考えるため、県民教育・普及啓発が必要。

【解決の方向性と想定される県施策】

- 様々な機会を通じて、「老い」を肯定的にとらえるための県民への積極的な啓発
 - 自らや家族の老い（老々介護）への備えについて教育・普及啓発（男性の家事、介護技術、認知症など）
 - 介護職員に対する理解と敬意を醸成する顕彰制度の充実